

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2017年4月号 通巻100号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2017

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

100号到達！これからの課題

課題は山積 どうやって実現させる？

東京タヌキタイムズは今回で100号になりました。どれだけの方が購読されているかはわかりませんが、いつもありがとうございます。

今回は東京タヌキ探検隊！のこれからの課題を重要な順に並べていきます。

最重要課題はタヌキではなく…

●アナグマの生息調査

最重要課題はタヌキではなくアナグマです。東京都23区のアナグマの生息数は数十頭で絶滅寸前です。今調査して生息状況を明らかにしないと本当に絶滅してしまうかもしれません。調査の候補地もあります。アナグマの生息地の保全も考えなければならぬかもしれません。

●タヌキの生態

タヌキの生態の中でも行動範囲と食べ物は重要な調査対象です。これらを解明することで、都会で生息できる理由がわかるでしょう。行動範囲の調査ではGPSロガー(記録装置)をタヌキに装着するのが望ましいのですが、機材の調達やらタヌキの捕獲やら簡単ではなさそうです。食べ物については未分析のサンプルが多数あるのですが、まとまった時間がないと分析は難しいです。

●ハクビシンの生態

ハクビシンも同様で、行動範囲と食べ物は優先的な課題です。タヌキと比較することで新しい発見が得られるでしょう。

●タヌキなどの生息数の推定

生息数の推定も重要なことです。より精度を高める計算方法は常に考

える必要があります。また、生息数の増減に注視することも必要です。

●ハクビシン冬眠仮説の証明

この仮説の証明は大変です。飼育下のハクビシンでは冬眠しない可能性大なので、複数の野生個体にGPSロガーを装着して長期追跡するしかありません。

●目撃情報収集

目撃情報の収集はこれまで通り継続します。これこそが東京タヌキ探検隊！の中心核ですから。

●情報提供

これまでもホームページや報告書などでタヌキなどについての情報の提供をしてきました。タヌキやハクビシンなどについては誤解や不正確な認識もまだまだ多くあります。今後もホームページやメディアなどを通じて情報の提供を行います。

●書籍の執筆

書籍「タヌキたちのびっくり東京生活」からそろそろ10年になります。その後にはわかったことも多いので新たな本を書かねばならないのですが、その時間がありません…。広報宣伝の一環としてぜひ実現せねばならない目標です。

●ホームページのスマホ対応

現在の東京タヌキ探検隊！のホームページはパソコン向けのデザインにしています。ですが世の中はスマホ全盛。スマホに対応したデザインにもしたいのですがその研究の時間もなかなかとれません。

●東京コウモリ探検隊！の継続

タヌキなどとは別の活動になりますが、東京都23区のアブラコウモリの調査も継続します。アブラコウモ

リも都市動物の代表的存在です。東京コウモリ探検隊！は参加者を増やすことが課題です。同時に超音波発生源の調査も行います。

●研究に専従できる態勢作り

いろいろ並べて来ましたが、仕事をしながらでの研究では時間的にかんがりの制約があり、このままでは現状維持しかできません。研究に専従できるようにすることが本当の最重要課題なのですがどうすればいいのかわかりません。スポンサー募集？あるいはクラウドファンディング？皆様のお知恵をいただきたいです。

次号のお知らせ

これまでは東京タヌキタイムズはPDF形式で提供してきましたが、今はスマホ時代でPDFだと読みにくはずです。次回からは普通のテキストで提供します。

毎回テーマをひねりだすのも苦勞なことになっており、内容も一新することにします。特定のテーマを複数回に渡って解説するという形にします。まずは「形態学」からスタートします。ただし、何か事件があった場合にはそちらを優先して取り上げることがあります。

東京タヌキタイムズを今後もよろしくお願ひします。

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>